

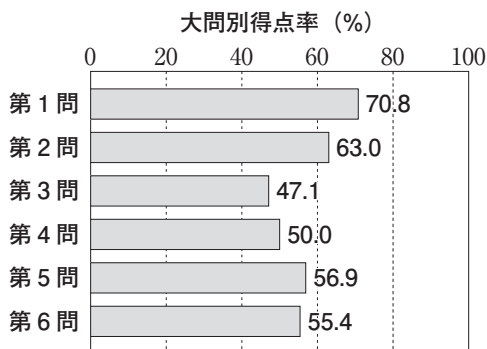
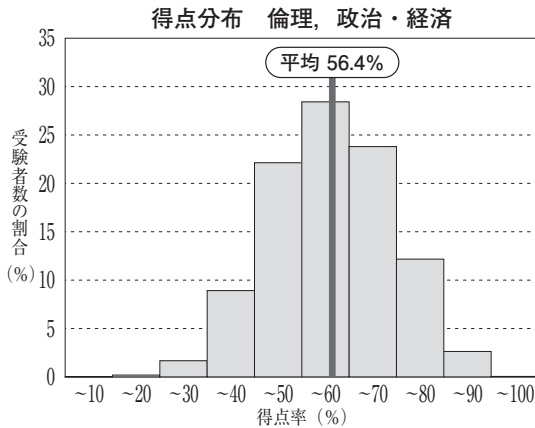
倫理, 政治・経済

1年間では最高の出来だが、本番平均点にはまだ遠い。残りの期間を悔いのないように。

I. 全体講評

今回の「最終12月センター試験本番レベル模試」における「倫理, 政治・経済」の平均点は、56.4点と、今年実施した試験のなかでは最も高い平均点となった。東進のセンター試験本番レベル模試は毎回本番レベルで出題されるが、ほぼ回を追うごとに平均点が上昇してきたのは、受験者が順調に学習を進めてきた結果と言える。もっとも、センター試験本番の平均点（2016年度は60.5点）にはまだ約4点もの差がある。もう残された時間は極めて限られているが、ここからのラストスパートでなんとしてもプラス10点は目指したい。

今回の模試では自分の苦手箇所が明らかになった受験者も多いだろう。あれもこれもではなく、手当てすべき箇所を中心に底上げを図ってもらいたい。



II. 大問別分析

第1問 青年期分野・現代社会分野

大問としての得点率は7割を超え、上出来であった。

青年期・現代社会分野の得点率は70.8%と、大問の中では最も高かった。難易度の高いピアジェについての知識が求められた問1 [1]だけは4割ほどしか正答できなかったが、その他の設問の正答率はいずれも6割以上となり、上出来であった。単純なグラフ読解問題（問3 [3]）では正答率が9割を超えた。本番でも、こうした設問は絶対に落とさないように慎重に解いてもらいたい。

第2問 源流思想・日本思想分野

結果そのものは悪くないが、基礎事項での失点が目についた。

得点率は63.0%と、まずまずであった。おおむね悪くない出来であったが、問3 [8]が正答率3割弱と、足を引っ張った。決して難問ではなく、浄土信仰について押さえるべき点の間問われているものであるため、よく復習しておいてほしい。

第3問 源流思想・西洋近現代思想分野

ややレベルの高い内容の設問のみならず、本文の趣旨読解問題も不出来であった。

大問の得点率は47.1%と、今回の大問中で最も低かった。問1 [13]ではヤスパースについての本質的理解が求められたが、4割ほどの受験者しか正答できなかった。問4 [16]は三つの記述すべてについての正誤判定を求めるという形式で、およそ3人に1人しか正答できなかった。決して難問ではないが、理解のあいまいな受験者の多いことが浮き彫りになった。本文の読解問題（問7 [19]）も不出来であった。

第4問 選挙と政党

消去法の使えない設問でふり落とされる受験者が多い。

大問としての得点率は50.0%と、物足りなかった。自民党についての三つの短文すべてについて正誤判定を求める問3 [22]は正答率が3割程度だった。近年のセンター試験で多いタイプの設問だが、消去法が使えないだけに、正確な理解が求められる。こうした設問こそ真の実力が問われるので、よく解説を読んで確認してほしい。

第5問 平和主義

得点率はまずまずだが、基礎事項が十分に理解できていないケースも多かった。

得点率は56.9%と、政経分野では最も高かった。しかし内容を見ると、日本国憲法で限定的に「戦力保持」が認められるとの記述について、3割ほどの受験者が正しいと判断する(問2 [29])など、基礎事項の学習も不十分な受験者が多い状況がうかがえる。

第6問 南北問題

センター過去問で繰り返し出題されているテーマが十分にカバーできていない。

大問としての得点率は55.4%。NIEO 樹立宣言(問3 [35])や日本のODA 拠出額の推移(問5 [37])などはこれまでセンター試験で繰り返し問われてきたテーマだったが、正答率はそれぞれ10%台、20%台にとどまった。過去問の研究があまりに不足していると言わなくてはならない。

Ⅲ. 学習アドバイス**◆残された期間にやるべきこと**

公民科目はどうしても後回しになりがちなので、現段階で万全の対策を講じたという受験者は多くないだろう。とはいえ、本番直前のごく短期間を有効活用して、驚くべき成果を挙げている者も毎年見られる。他教科と比べても、「最後の悪あがき」次第で大きく結果が左右しう科目なのである。

現実問題として、まだ全分野の学習を終えていない者も少なくないはずだ。しかし、今から講義型の参考書を慌てて読んだり、一問一答型の問題集などをせっせと暗記したりしても、大した効果は期待で

きない。こうした学習は時間的にロスが大きいのだ。過去問をつぶすことに注力しよう。

もちろん過去問に取り組んでも、分からないことがいくらかでも出てくることだろう。気にすることはない。いきなり解説を読み、理解できない事項については用語集などで調べよう。それで納得できれば十分だ。インプットを終えたあとにアウトプットのトレーニングをするのではなく、アウトプットしつつインプットしていくのである。

◆本番に臨む姿勢

センター試験本番では、すべての設問に本気で取り組もう。当たり前のように思われるかもしれないが、これまでの模擬試験でケアレスミスが一つもなかったと言える者はまずいないはずだ。実力で解けない問題については仕方ない。しかし、本来なら解けたはずの問題を落とすというのは本当にもったいない。こうしたものをひとつでも減らすには、気迫と執念と集中力で臨むしかない。成績がいい受験者というのはケアレスミスも少ないものだ。これに反して成績の振るわない者ほど、実力すら出し切れていない。実力を出し切る執念が勝利につながるものと肝に銘じてがんばってもらいたい。健闘を祈る。